

# やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：令和元年11月5日（火）

19：00～20：30

場 所：片岡公民館

出席者：市長

片岡小学校PTA役員 6名

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

平成28年7月から2年間をかけ、矢板市内65行政区で「未来づくり懇談会」を行った。1,100名を超える市民の方から意見や要望があったが、参加者の8割は60歳以上という状況であった。それを受けて平成30年度は「未来づくり懇談会」を補完する形で、子育て世代や市内3つの高校生、矢板市PTA連絡協議会を対象とした「やいた未来ミーティング」を10回開催した。今年度は、小中学校単位で開催し、意見や要望を聞かせてもらいたい。

3 説明事項

「矢板市子ども未来基金の創設について」

市長

この基金を始めたきっかけは、子ども医療費助成制度の問題からスタートした。矢板市では、平成24年度から高校3年生まで医療費の無償化をしているが、無償化の方法としては、医療機関の窓口で支払い後、手続きをしてお金が戻ってくる償還払方式。

近年、栃木県内の市町では、医療機関の窓口で支払いが必要ない現物給付方式が増えてきたことから、矢板市としてどうするかを平成30年度に検討を行ったところ、同じ医療費の無償化でも、現物給付方法にすることで、矢板市の負担額が大幅に増えることがわかった。

理由としては、病院に行くほどでもない病気等であっても受診してしまう医療のコンビニ化や、国の負担金や県の補助金の減額がある。また、他の医療費助成制度を利用しなかったり、各種健康保険の付加給付が受けられないなどがあった。他にも小中学生など加入している、日本スポーツ振興センター保険を手続きが面倒くさいと言って利用しないなど複数の要因がある。

現物給付を行っている市町の医療費の伸びを見て試算したところ、中学3年生まで現物給付を拡大した場合には年間4,500万円、高校3年生まででは年間6,200万円も負担が増えることが確認された。

これらの要因を踏まえ検討した結果、市としては現物給付ではなく、中学3年生まで

拡大した場合の4, 500万円をもっと違った使い方にしようと、子ども未来基金を創設し、子ども子育て支援に繋がっていくような取り組みをしようと決断をした。

基金の用途については、平成31年2月から3月にかけてPTA役員にアンケート調査を実施し、1番多かった給食費の助成と4番目の小中学校の学用品購入の助成とした。2番目に多かった予防接種の助成拡充については、平成31年4月からインフルエンザの予防接種の助成年齢の拡大が1月の時点で決定していたことから除外とした。3番目の学校施設の整備や備品購入についても、具体的な内容を聞いてみたところ、エアコンの設置であった。エアコンの設置についても、1月の時点で全ての小中学校の普通教室にエアコンを設置することで決定していたことから除外とした。

本年度は、基金4, 500万円の3分の2となる3, 000万円くらいを使用する。

また、償還払い方式の利便性向上として、我々の努力不足もあったかもしれないが、平成30年度に実施した懇談会で、1レセプト500円かかるとか、申請方法が複雑、郵送申請についても意外と知られていなかったことから、平成31年4月から子ども医療費の申請書類と郵便受取人払いの封筒を医療機関に設置することとした。

償還払いは面倒だと思う方は多いと思うが、まだまだ利便性を向上できるのではないのかと思っているので、市では現物給付の対象年齢を引き上げないという選択をした。

その上で限られた財源用途を、引き続き皆さんをはじめとする小中学生の保護者の方から声を聞きたい。年度末にはもう少し広い範囲でアンケート調査をしたいと考えている。ムリ、無駄のない「矢板モデル」という医療費助成の制度や、子育て支援制度を確立していきたいと考えている。

### 3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

市長

テーマに入る前に材料を提供したい。本年度の矢板市立小中学校5大ニュースということで、一つ目は全国学力テストで市内の小学6年生が昨年につき、全教科で全国平均を上回った。全国学力テストは、全国の小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施をしているが、市内の小中学生は昨年度まで、県の平均はもとより、全国平均で上回ることはなかった。昨年度の全国学力テストでは、教育委員会のいろいろな取り組みが功を奏し、小学6年生の国語A・B、算数A・B、理科の全ての教科で県平均、全国平均を上回った。本年度も小学6年生は全教科で全国平均を上回ったところ。今の教育長になってから、学校での授業改善の努力と家庭学習の取り組みの成果が具体的な形になってきたと思っている。今後ともさらなる学力向上に取り組むと共に、中学3年生については全国平均を全教科で上回ったことがない状況なので、中学生の学力向上に結びつけたい。

2つ目は、全ての小中学校普通教室にエアコン設置ということで、6月末までにエアコン設置をした。

3つ目は、トイレの洋式化。平成28年の洋式化率は24.2%。県内25の市町で最下位。平成29年度に矢板中学校の整備、本年度は東小学校での工事が間もなく始ま

る。また、矢板小学校分も国の予算が付いて、年度内に整備を進めていく。

4つ目は未来基金。5つ目は、小中学校の適正規模・適正配置の建議だが、現在、計画づくりが内部で進められている。

## Q1

保護者

学校の施設の整備について。校長先生と話をした際に、3つの要望を出しても年に2つまでしか対応できないと聞いた。他の整備もあり片岡小のチャイムは未だに鳴らないが、そういったところに予算がまわせないと聞いていた。

保護者

チャイムは鳴らさないと聞いていた。

保護者

壊れてしまって鳴らない。

教育部長

話は聞いている。音響施設が古く、アンプも生産されていない。どう対応するのか確認する。

保護者

だいぶ前から。要望は出しているが雨漏りや遊具整備など、子ども達への優先順位が高い物に流れてしまう。

市長

市も出来るだけ言い訳にしないようにやってきたが、お金が無い。合併しなかったので合併特例債も使えない。学校施設に関しては、小中学校の適正配置に関係するが、矢板市は小中学校の数が多い。1クラス辺りの児童・生徒数は、さくら市や那須塩原市に比べると少ない。クラスの数が多いとエアコンもそうであったが、なかなか踏み切れない。少人数で良いと言う声がある一方で、管理するのにお金がかかる。中学校でいうと分かりやすいと思うが、さくら市の旧氏家町のエリアには、昔から氏中一校しかない。それらも踏まえ、小学校の適正配置は積極的に進めて行かなくてはいけないと、建て替えや補修など、集中的にお金を持って行けるような対応ができない。今回のエアコン整備でも悩んだが、愛知県豊田市で校外活動から帰ってきた小学1年生が熱中症で亡くなった。生命に関わることなので全部に設置したが、選択と集中をしなければならないと聞いている。すぐにはお答えできないが、小中学校の数を減らして、小中学校の1校にかけられる予算を増やせるようにしたいと思う。片岡地区の小中学校については、施設一体型の小中一貫校で検討となっているが、今の片小の敷地に造るのか、片中の敷地に造るのか。どちらでもないところに土地を求めて造るとなれば片小のチャイムの優先順位は下がる。今は教育総務課でも限られた予算の中で優先順位を考えていると思うが、お金が無いだけ言ってもはじまらないので、時間をかけてでも1つの学校にかけられる予算も増やしていければと思う。来年、再来年には成果はでないが、3年、5年経てば、ある程度お金がまわるかなと思う。

保護者

壊れたと全面的には言えない。

秘書広報課

東小も鳴らない。鳴らさないと言っていた。

保護者

鳴らなかったら鳴らないなりに子ども達は自分たちで時計をみて動くので、それはそれでいい。時間にルーズな子は音が鳴らないと困る。

秘書広報課

時計を見て自分たちで確認し、行動をするので鳴らさなくなったというのはあった。

市長

それは、東小が壊れたからではなくて？

秘書広報課

壊れたとは聞いていない。

Q 2

市長

片小は1年生一クラスになったが、いつからか？

保護者

去年から。

市長

クラブ活動はどうか？

保護者

南ファイターズ、バスケもクラブになり学校内ではやっていない。

市長

クラブがあるのは野球。主に男子。バスケは女子。ソフトは女子。サッカー。一通りある？

保護者

入りたい子達だけ。その子達が中学校へ行って、その部活へ入るかというクラブチームに入られてしまう。

秘書広報課

片中のサッカー部は入っていると思うが。

保護者

でも、野球部はなくなってしまった。

市長

個人的な意見だが、昔は男子が野球かサッカー。女子はソフトかバスケ。吹奏楽があるところはそこも。みんな放課後に活動するのが当たり前だった。部活やクラブの加入率が全体として下がっている。その上でクラブチームへ行く話となると、スポーツをやるからにはクラブチームで選手になって欲しいものか。私はスポーツが出来ればいいという感じだが、高学年のお子さんをお持ちの保護者はどういう考え、メンタリティなの

か。学校のクラブ活動はなくてもよいのか？

保護者

昔は学校でみてくれて親はあまり関与していなかった。今は、親が全てやっているようなイメージがあり、クラブチームは預けられる。野球だったら将来に近づけるというのもある。

保護者

野球に関しては中学校になるとクラブチームは硬式。高校に行ってもそのまま続けられるので、中学校からやっていたら甲子園の道も近い。

保護者

一握りだと思うが親御さんそれぞれの考え方。あとは、勉強がなかなかという子は野球で高校へ行くという人もいる。クラブは親の負担がかかる。スポーツはやらせたいが送迎ができない。

市長

経済的な負担もあると思うが、例えば、難しいと思うが片岡地区の小学校の合同。誰が仕切るのか、誰が指導するのかという話になると思うが、枠組を作るお手伝いをした方が良いのか？それともやりたい人はクラブチームでやればいいのか？今は矢板市内で一番児童数が多い東小や矢板小でさえ、このままだと部活が維持出来ないという状況。片小は残るという案があるが激減する。

保護者

つつじヶ丘でどんどん新しい人が住んでいるから。

市長

今は学区制が厳格化されてきょうだいがいない限り原則乙畑小学校。乙畑は数年前50人台であったが、西暦2024年には118人。片岡が150人という状況。今後もつつじヶ丘に家を建てる方で増えるので、118人から更に増える可能性はある。部活動の話に戻すが、東小はどうしているのか？

秘書広報課

昔は学校単体で組んでいたが、部員が集まらないため、外から部員を入れている。野球バスケともに川崎小から来ていると話を聞く。ソフトボールは誰もいないので終わり。サッカーは人数が足りずチームにならない。東の子どもはサッカーだったらクラブチームに入る傾向がある。野球は休みがないなど保護者の負担が大きい。

市長

矢板南ファイターズは大変だと思う。親御さんは。

秘書広報課

それが普通。お茶当番や送迎があるので野球離れになっていて親がやらせない。ソフトボールも離れて行ってしまった傾向が多い。本当に好きな子は小学校からやっていて、6年の夏で終わるので矢板連合に入ったりしている。中学生になると近隣のさくらボーイズや那須野が原ボーイズに好きな子は行ってしまふ。中学校の野球部に入らないで、矢中の野球部もギリギリ。去年は組めずに泉中と合同で大会出た。今年は入部してきたのでチームが組めた。矢中のサッカー部も人が足りない。

市長

矢中でさえも少ない。中学校は部活という位置づけになってくるので考え方を変えなくてはいけない。

Q 3

保護者

子どもを増やすために、新しい人を取り入れるような矢板の魅力をというのは？

市長

1つの成功例は乙畑小の児童数の伸び。つつじが丘に引っ越して来る人は若い世代だと思う。勤め先もあると思うが、片岡は宇都宮への通勤圏として十分に成り立つので大型分譲地みたいなものがあると良いのでは思っている。西那須野地区は平坦なので造成しやすいことから分譲価格も安くなるが、ポイントは価格ではなく、分譲地が意外と矢板は造れない。矢板駅の周辺は商業施設が近いし、中学校は少し遠いが小学校も間近にある。市役所もちろん近い。住むには悪いところではない。そういった中、最近空き地や空き家が増えているが、若い子育て世代は昔ながらの近所付き合いをしている一画に空き地があっても引っ越してこようとは思わない。同じような世代がいて、新しい人同士がいるところに越してくると不動産屋も言っていた。人口が増えているつつじが丘や木幡の土地区画整理事業などは、グランディーハウスなどが土地を求めて造成する。そういうところを市が後押ししていく努力をしないとイケないのかなと思っている。例えば、今回要望が出ていたが片岡公民館からサンユーマまでの間の区画は、片岡二区行政区から道路を抜いて欲しい、開発を進めて欲しいという要望もきている。ここは地籍調査をしていないので公図が一致していなかったり、元々は鶴ヶ池という沼地だったので造成費用がかかるなどがあるが、仮に整備できれば、さくら市の上阿久津よりも駅は近いし、サンユーマや小中学校も近い。そういった土地利用のしかたを見直していく必要があるのかなという気がする。片岡地区を対象しているから言うわけではないが、これからは片岡地区辺りが引っ張ってもらわないと、矢板はより一層立ちいかなくなってしまう。さくらが丘ニュータウンでも緑新が増設すると聞いているので期待できるのでは。この辺りは便利だと思う。1つの考えとして矢板市が持っている纏まった土地が結構あるので、不動産屋に売り払いして宅地造成してもらおうと思っている。例えば、片小と片中を一緒にして、残りの敷地を分譲するとか、どんどんコンパクトにして売れるものは売っていく。西小学校は3月で廃校になったが、公募型プロポーザル方式で提案を募り、2社くらいが名乗りをあげているらしい。

Q 4

保護者

先ほど医療費申請を郵送でという話があったが、知らない人も多いと思う。あとはエクセルのシートに入力してコピーをして出せばいいというのを私も友達から聞いて知った。一人ひとり書くのが大変。ピンクの紙に書かなくてはいけないと思っている。そういった情報もあまり知らない。

保護者

郵送は知らなかった。

市長

郵送を知らないという方が結構いた。

保護者

一生懸命手書きで書いて出そうと思ったが、それを聞いてすごくショックだった。出すのが面倒になり1年くらい放置したものを計算したら10万円近く損をされていて悔しい思いをした。もう少し広報でもいいので子どもに関するものを大々的にやってもらいたい。広報は目をとおすので。1年間というのはどこかに載せていたりするのか？

秘書広報課

出ている。10月号かな？

保護者

見ているようで見てない部分もあるので、広報に子どもに関する通信みたいな感じで、一項目入れてくれれば絶対見なきゃとなる。

市長

いろいろとお母さん方でも工夫をし、先ほどのエクセルではないが、いつ大丈夫だとかアイデアみたいなものを紹介して、皆さんで共有してもらえるものがあるといいのかもしれない。特別号が出せるかどうか予算の関係もあるが、広報の中でも。

保護者

広報の1ページでもいいので今回は医療費に関してなど。

秘書広報課

広報でもピンク色の縁のページは子ども向けが纏まっている。どちらかというといく小学  
生向けというよりは未就学児向け。

保護者

小学生、中学生に関することは一切とっては申し訳無いが少し。

秘書広報課

アプリを入れてもらえると便利。「やいたぶ」というアプリを今年4月から運用している。プッシュ通知でバンバン入る。インフルエンザであれば、医療機関の接種開始が、10月1日から始まる。それが9月26日にプッシュ通知で助成制度が始まるのも入れている。情報量は広報並みに多い。

市長

矢板はそういうのに一生懸命。あとは何でしたっけ？

秘書広報課

あとは「やいこみゅ」。「やいこみゅ」はどちらかというといく子ども向けの情報を流している。「やいたぶ」は全年代。情報量としては「やいたぶ」の方がボリュームはある。プッシュで来るので見逃すのは少ない。これが以外と浸透せずどうしようかと思っている。

保護者

何で、どこに出したら浸透するのか？

市長

意識が低い方にどうやってアプローチしていけばいいのか悩んでいる。もっともっと使って欲しいサービスはある。知らないで済まされていることはある。

保護者

入学式など、必ず親御さんが来るというときに。こういうのはどんどん新しくなっていく。医療費もどんどん変わっていくので途中の人が分かっていない。今、子どもが生まれた人は分かるが。

保護者

私たちのような途中途中の人はどこで知るといったら、学校のお手紙で。出さない日もある。

秘書広報課

医療系のものであれば、健康増進課の方から保健事業の冊子を年1回発行している。休日当番医から一通り載っている。あの一冊があれば子どもの方はある程度間に合うようにはなっている。

保護者

4月はいろんなものがいっぱい来るので見ない。時期をずらしてくれれば。

秘書広報課

どうしても4月から動くので4月1日号はどうしてもいっぱいになっていってしまう。おススメはアプリ。

保護者

いいと思う。

保護者

アプリを入れたら何か特権とか。

秘書広報課

そこは残念ながらない。アプリは個人情報を取ってはいけないという決まりがあるので確認がとれない。それなので誰が登録したかの確認がとれない。やいこみゅ(ライン)なんかは誰が入っているかリストは出てくる。アプリに関しては人数しか把握出来ない。

保護者

ちなみに今はどのくらいの方が

秘書広報課

今で、300人位。

保護者

300人?!少ない。

保護者

そこから医療費助成などできたりすると。QRコードを見せるだけとか、バーコードを読み込むだけで手続き完了とか。

保護者

そうしたら簡素化でまた医療費が上がってしまう。



市長

「やいたぶ」が300。「やいこみゅ」はもっとある？

秘書広報課

「やいこみゅ」は4,400人位。LINEはかなり登録してもらっている。子ども系の情報は昔から「やいこみゅ」で流している。元々ある医療費助成や手続きに関しては流していないのでどうやって見ようとなると見に行くしかない。

保護者

アプリでも何か1つ詳しいことが載っていると違う。

Q5

保護者

先ほど医療のコンビニ化で軽症でも病院にかかってしまうとか、矢板市に言えることではないと思うが、回診看護師でおとなこども診療をやるが、その時に電話がかかってくるという人は小さいお子さんが多い。話を聞くと日中にちゃんと病院にかかっているけど、不安でまたみてほしいという方や、昨日薬をもらったが熱が下がらないのでまた薬が欲しいとか。子どもはそんなすぐに熱は下がらないし、何日かかかるが不安でかかってくる。病院側も不安だったらいらして下さいと言う。診察をしてもらい安心して帰る。電話でもなんでも専門の人が、一応「#8000」番はあるが、乳幼児健診の際にお母さんなどにこのくらいの状態の時にはもう少し様子を見てなど、お母さんに知識を植え付ける。どうしても知識がないと夜に不安になり、子どもが心配でよくよく話を聞くと水分も取れて、食欲もあるが熱が40度くらいあるから、こんな夜に連れて来るのであれば明日の朝連れて来た方が本当はいいのではないかというところもあったりするので。

市長

お話あったように「#8000」は子ども救急電話相談。県がやっており、県の小児のベテランの保健師さんが夜遅くまで電話で対応してくれる。利用件数なんかも年々増えてきているようだが、これも知らない人が結構いるのでは。うちも一度電話したことがある。電話をしたら適切に指導というか様子を聞いてくれた。

保護者

急変したらどうしようというのがあると思うので、かかりたいという気持ちは分からなくないが。昼間もかかって夜もかかってそういったところでどう医療費の絡みが。

市長

矢板市でむしろ足りないと思うのが、県の所管だが矢板市には平日夜間の初期救急医療はない。矢板市に住まいのお母さん方は当たり前だと思っているかもしれないが。

保護者

そうです。

市長

日曜と祝日のみで塩谷病院と黒須病院で行っている。平日夜はやっていない。子ども医療の水準としては遅れていると思う。コンビニ医療を助長させるようなことがあって

はいけないが、矢板市だけではなく塩谷地区2市2町には無い。あとは核家族化で祖父母がいない。同居する流れには戻らないと思うが、お母さんが育児をする中で孤立してしまうのを考えなくてははいけない。健診等での支援や、保健師が訪問するなど。病児・病後児保育はあるといいと思うが、私より年上の職員だと、男性も女性も子どもが病気の時ぐらい親が見て当たり前だみたいなことを言われるが、皆さんはどうか？

保護者

利用したことはないが、インフルエンザの時に利用できない。そう言うときこそ見て欲しいのに。

市長

塩谷病院等とタイアップしてベッドを確保してもらおうとか。ある程度の間、学校に行けない時をどうするか。

保護者

あったほうがいい。仕事が絶対に休めるという保証がないので。

市長

それをいうとベテランの職員に言われるのが、市民はあったほうがいいと言うが、実際にそのサービスをはじめると利用しない。

保護者

広がらないというのがある。

市長

預かって貰える施設を市外には増やしているが、市内にあればいいなと思うが。他の町も意外に広がらない。

保護者

ぴっころ保育園のは何？

市長

病後児保育。市内で病後児を預かっているのはぴっころ保育園だけ。病院に連れて行ってからでないと利用できない。塩谷病院の院内で、受診してその場で預かるようなことをしないと親御さんの利便性は向上しない。富山市は病気になると運転手と看護師が迎えに行く仕組みがあると新聞で見たことがある。申し訳無いが矢板市はそこまでお金をかけられない。子ども未来基金の使い道のアイデアをもらえればと思っている。

Q 6

市長

子ども未来基金に戻るが、給食費の助成と学用品の購入助成。小学生だと朝方、お釣りの無いように小銭を用意するのが面倒くさいので、給食費よりも学用品の助成のが良いと言った声もあるし、反対に給食費の助成という声もある。他には、部活動の送迎やクラブ活動の送迎にバスを出した方が良いのではと言った話もあった。

保護者

小さいことだが、読書週間みたいなものを学校でやっており、最近改善されてようだが学校の図書室を使えない。

保護者

司書がない時は図書館が使えない。本が借りられないというのがあった。今はボランティアさんが昼間に行き、バーコード化はすごく便利になった。司書は乙畑、片岡、安沢の3つを回っているので、その辺りの人件費に使われてもいいのでは。休み時間は外に出たい子はいっぱいいるが、本が大好きな子もいると思うので。

市長

学校司書がないと使えないのか。貸し借りが出来ない？

保護者

今はボランティアのおかげで毎日借りられるようにはなったが、結局誰かがいないと借りられない。以前よりは良くなったが、学校に常任がいれば休み時間に行ける。

秘書広報課

図書委員とかはやらないのか？

保護者

子ども達はもちろんやっている。結局先生が居ないと。

秘書広報課

先生がいなくても確かやっていたと思う。子どもの方で書いて図書委員が昼休みに時間を決めてやっていたと思うが。

市長

全部の休み時間ではない？

秘書広報課

15分休みの時か昼休み。

保護者

学年によって曜日が。

市長

学年によってですか？

秘書広報課

もしかすると、学校のローカルルールなのか？

保護者

先生いないから借りられないというのが片岡のローカル。

秘書広報課

司書がかけ持ちをしているは同じはずなので、貸し出しは同じだと思うが。

市長

事実関係を確認する。

Q7

保護者

給食費を払わない人がいるから、年3回お弁当の日があるのだというのがあがるが。

市長

片岡地区で話題になっているのか。先週、片中でも話が出ていたが、お弁当の実施は、

地産地消や食育の一環である親子のふれあい、親への感謝の気持ちの情勢をはかるために実施しているとのこと。今年度は10月11日、12月25日、2月28日。

保護者

校外学習でもお弁当を持って行っている。

市長

校外学習もあるので、わざわざお弁当の日をつくる意味あるのかという指摘があった。那須塩原市は無い。

保護者

高根沢町もない。その中で、給食費を払わない。

市長

最近はあまり関係ないと思う。矢板ぐらいなのか？

保護者

矢板ぐらいの気がする。塩谷町は聞いたことない。

保護者

子どもは楽しみにしている。

保護者

1回でいい。

市長

1学期の終業日。冬期休日の前日。2月最終金曜日。

保護者

みんなそう思っている。

保護者

お弁当を子ども達は見せ合うから、お母さんが早起きをして頑張ってしまう。

市長

これは片中でも盛り上がった。これまで指摘を受けたこと無かった。持ち帰り検討する。また、何かの機会に意見を聞かせもらいたい。

6 閉 会 20:30